

# <IWA/ICA2005 報告>

## Session 1

### オープニングセレモニーと全体会議

加藤 孝夫 \*

(株) 東芝

TAKAO KATO \*

TOSHIBA Corporation

5月30日 9:00~10:40 ルームA

座長: ICA2005韓国組織委員長 釜山国立大学  
朴 教授

ICA2005オープニングセレモニーと全体会議が、  
初日の朝9時から行われた。

開催にあたって、釜山国立大学総長と釜山市の副市長、  
そしてロンドンのIWA事務局長のポールライト氏から  
挨拶が行われた。開催挨拶では、世界の水問題と、その  
解決手段としてのICA技術(計測・制御・自動化)の  
重要性が訴えられた。

挨拶のあと、ICA会長の釜山大学教授、京都大学  
松井三郎教授、スウェーデン Lund 大学 オルソン教授  
の3氏からの基調講演があった。金教授の基調講演は、  
開催国韓国の上下水道の状況とICA技術を応用した事  
例について、河川水質管理のための自動観測ネットワ  
ークや下水処理場の統合管理システムの紹介が行われた。

これに続き松井教授とオルソン教授からそれぞれICA  
技術の進展と今後の展望についてヨーロッパと日本そ  
れぞれの水事業の進展に基づいた報告がなされた。両教  
授の論点はかなりの共通点があり、広域化、全体最適、  
統合化、目的間のトレードオフ問題、モデル化などにつ  
いて論じ、松井教授は「ユビキタスセンサーネットワ  
ーク」で、オルソン教授は「統合管理システムの構築」で  
将来展望を締めくくった。

オルソン教授は、世界の水環境、水問題からひもとき、  
上下水道システムの特徴を様々な複雑性の内在という視  
点で分析したあと、統合化への道という展望を鮮やかに  
示した。

一方松井教授は、日本の上下水道の現実的な課題を紹介したあと計測・制御・自動化の進展について具体的事例をふんだんに使った紹介を行った。体系的で論理構成

のすばらしいオルソン教授と現実的事例を集大成した松  
井教授は、扱っている内容は非常に多くが共通している  
が、表現方法は好対照であった。

オルソン教授の内容は、ヨーロッパを中心としたICA  
分野の主要論文が引用されている。

松井教授の講演では、計測・制御・自動化の各技術の  
動向を概論し各についてEICA賛助会員の方々から提  
供頂いた最新事例を発表し、多くの方からスライドがほ  
しいとの依頼も受け好評であった。

松井教授の講演は、日本のICA技術を国際的にPR  
した有効な基調講演となり、またICA2005のオープ  
ニングセレモニーとして充実した全体会議であったと思  
う。松井教授の基調講演に事例を提供頂いたEICA  
賛助会員の方々に改めて御礼申し上げる次第である。

